

日本語教育実践研究（5）

—中上級日本語教育の実践—

小宮 千鶴子

日本語教育実践研究（5）は、中上級日本語教育の方法について実際の授業に参加して実践的に研究するためのクラスです。中級の終わりから上級にかけての学習者が受講する「日本語6α」を実習の場として、授業見学を行った後、重要語の導入や読解指導の実習を行い、重要語クイズの採点や短文や作文の添削なども練習して、中上級日本語教育の方法を実践的に検討していきます。

2005 年度秋学期の日本語教育実践研究（5）は、学期前半は「日本語6α」の小宮の授業見学を中心に行い、後半は語彙指導と読解指導の実習を中心に、読解問題の作成、重要語クイズの採点、短文の添削などを行いました。

授業見学は、毎回、各自がテーマを定めて見学を行い、見学レポートを提出しました。見学レポートには小宮がコメントを添えて返却しましたが、いくつかの大切なテーマについてはクラスでのディスカッションを行って理解を深めました。

教育実習は、受講生全員が中上級段階の中心的な指導内容である語彙指導の実習1回と、小グループに分かれての読解指導の実習3回の計4回をそれぞれ行いました。語彙指導の実習では、事前に日本語教育実践研究（5）の授業で実習担当者が教案を発表して全員で検討し、さらに、実習後にも問題点やその原因、対処の方法などについて話し合いました。今期は実習生が多めで、クラス活動に参加せずに観察した期間がやや長く、実習の時間管理が当初甘かったことなどから学習者との間に緊張が生じてしまいましたが、実践研究の時間に話し合いを重ねて改善されました。

小グループに分かれての読解指導では、1回目は小宮が作成した読解教材を使用した実習を行い、2回目と3回目は各自が読解問題を作成して実習を行いました。グループの編成は、特定の学習者に偏らなくなるべく多くの学習者と組むように配慮して行いました。グループ指導では、一斉指導では気づきにくい個々の学習者の読解の過程をうかがうことができ、教材作りの難しさも経験しました。

限られた授業時間でしたが、それぞれの経験が今後の実践に生かされれば幸いです。

（コミヤ チヅコ・日本語教育研究科教授）